

令和6年度 中央区立晴海中学校 外部評価報告書

外部評価委員：織田幸雄、山口啓朗、宮原一代

報告書作成者：神山安弘

評価時期 令和7年3月

1 重点目標の評価

重点目標1「生徒に活躍の場を意図的に与え、生徒を鍛え、充実した3年間を過ごさせる」について

学校は教育理念に「共生」を掲げ、生徒が安心して学校生活を送れることを評価項目に掲げ教育活動を実践した。重点目標1に関連する「学校評価アンケート(教員・生徒・保護者)」の項目は、評価指標⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑭で各項目とも85%を超える肯定的な評価を得ている。学校教育の根幹である評価指標⑫「教育活動において人権を尊重する姿勢で生徒の指導にあたっている。」、評価指標⑪「生徒が集団生活のルールなどの規範意識を高め、思いやりの心を育むことができるよう指導している。」は、90%以上の高い評価を得ている。また、生徒アンケート⑩「学校に行くのが楽しいですか。」は84%、生徒アンケート⑭「先生は悩みなどについて親身になって相談にのってくれますか。」は、87%と高い評価を得ており、生徒にとって学校が「楽しく安心できる」場所になっている。この評価は校長の学校経営方針に基づき、生徒の学校生活の充実に向けた熱心な取り組みの成果である。

特に、教員アンケート⑫「人権の尊重」、⑭「トラブルを見逃さない」、⑩「明るく生き生きと学校生活を送る」、⑨「努力を認め励ます」は、全教員が100%の肯定的な評価をしており、「生徒に活躍の場」を与え充実した学校生活を過ごさせる教育方針が徹底された結果であり、本校が目指す教育理念「共生」への取り組みの成果といえる。

重点目標2「生徒の学習意欲を高めるとともに、確かな学力の定着に向け、教員の授業力を向上させる」について

学校は「生徒の基礎学力の定着など教員の指導力の向上や生徒の学習意欲や学習方法の定着」などについて評価項目に掲げ教育活動を実践した。重点目標2に関連する「学校評価アンケート(教員・生徒・保護者)」の項目は、評価指標①②③④⑤⑨である。①「学習効果を高める指導」、②「基礎学力が身につく指導」、③「学習意欲が向上する指導」、④「学習状況の評価」、⑨「ICT 機器を活用した授業」は、教員・生徒アンケートで高い評価を得ている。学校が生徒の学習意欲の向上や授業理解など基礎学力の定着を図る教員の取り組みが徹底された成果である。校長の経営方針に基づき、「教員の授業力」を向上させる学校体制の構築に向けた、教員の育成と地道な授業改善に取り組み、生徒の確かな学力の定着を図る取り組みを実践した成果といえる。

しかし、⑤「家庭学習の習慣」の設問は、生徒32%、保護者46%、教員39%が「あてはまらない」「あまりあてはまらない」の評価である。設問の「家庭学習の習慣」の「家庭学習」が個人によって多様に理解されるための結果といえる。また、⑥「朝学習や放課後の質問教室」の設問は、生徒40%、保護者44%、教員44%が「あてはまらない」「あまりあてはまらない」の評価である。これらの設問は、設問の意図や内容を明確に示すなど「生徒の実態」や「学校運営の実態」を踏まえた内容にするなど、設問を検討することを期待する。

家庭や地域との連携

学校は「生徒の活動や学校情報を迅速に伝え、保護者・地域の学校参画を促していく」について教育活動を実践した。「家庭や地域との連携」に関連する「学校評価アンケート(教員・生徒・保護者)」の項目は⑬⑮⑯⑰である。⑮「保護者との信頼関係」、⑯「地域の学校」、⑰「学校の様子を伝える」は、教員・生徒・保護者とも高い評価を得ている。しかし、⑬「地域の行事やボランティア活動などに参加」の設問は、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が教員・生徒・保護者の50%を超えている。この設問は、学区域を中心とした「地域の行事の実態」や「生徒の生活の実態」とボランティア活動について実態を把握し、設問を検討することを期待する。

2 今後の改善に向けた意見

保護者・生徒・教員アンケートにおいて高い評価を得ている。このことは校長を中心とした教員の日々の教育活動を推進する努力の成果といえる。現在、学校は若手教員の増加や生徒の多様化など教員の授業力や指導力の向上が求められている。これまでの成果を踏まえ、学校がリーダーシップを発揮し新しい時代に求められる学校教育を創造されることを期待する。

3 その他の意見

- ・「学校評価アンケート」の設問の一部の文言を吟味し、保護者・教員・生徒に教育活動の評価をわかりやすい内容にするなどの工夫を期待したい。
- ・教育を支える力は教員の指導力である。若手教員等の指導力向上に向けた管理職をはじめ教員の尽力に心から感謝を申し上げます。